

改訂版

スポフェス

ECO ミュージアム ウォークラリー



POINT.1 森林サイト

ここでは炭素循環がテーマ。

森の中では生物のはたらきによって炭素が絶えず移動しています。多量の炭素を蓄えている土壌を中心にみると、重要な炭素供給源の 1 つは落ち葉や枯死した枝です。炭素循環研究ではこの量を測定することは必須です。また、土壌へ落下した新鮮な落ち葉を分解して(食べて)、再び二酸化炭素として大気中へ炭素を戻す役割をする生きものもいます。多くは菌類などの微生物がその役割を果たしますが、大型の生物もその役割を果たしています。代表的なものはミミズですが、幼虫時代を土の中で暮らすカブトムシやコガネムシのような甲虫も新鮮な落ち葉を食べて成長します。もちろん成虫になれば食べ物は落ち葉ではなく樹液となります。

(解答: A:カブトムシ または C:コガネムシ)

POINT.2 野鳥サイト

コゲラはキツツキの仲間ですから、木に穴を開けて営巣します。キツツキが開けた穴を利用して営巣するのはシジュウカラなどのカラ類やフッポウソウです。これらの鳥を樹洞性の鳥と言いますが、ウグイスは樹洞性の鳥ではありません。ササなどの細長い葉を材料にして巣を作り、そこで子育てをします。

A:ウグイス、 B:コゲラ C:シジュウカラ D:フッポウソウ

(解答: A:ウグイス)

POINT.3 礫層

この礫層は、多摩丘陵北西部の頂部を構成する“御殿峠礫層”と呼ばれる堆積物の一部です。円磨された大小の礫がからないますので、河成堆積物と判断され、従って、当時はこのような川の堆積が行われる場所、すなわち河原の環境にあったと見なせます。御殿峠礫層は、構成礫の粒径は西に向かって大きくなることから、古い相模川がつくった扇状地堆積物とされています。

POINT.4 畑

今(2011年5月当時)ここでは、きゅうり、トマト、なす、ピーマン、とうがらし、パセリ、南瓜、さつまいも、枝豆、トウモロコシの 10 種類の作物を植えています。

過去にはスイカ、イチゴ、ブルーベリー、ゴーヤを育てていたここともありました。決められた区画内であれば、だれでも好きな作物を植えて育てることが出来ます。毎週の活動に来られなくてもコミュニティ・フィールドの仲間が水やりなどをして世話をしあっています。

【このコミュニティ・フィールドの活動紹介】

学生が主体となって、自然に恵まれた多摩キャンパスの立地を最大限活用し、教職員、地域の方々と交流する場にするために、数年前に活動を開始しました。現在、確認し合っている活動目的は「食べ物を作るプロセスを自ら体験する」、「立場の異なる人々との農業を通じた交流」、「キャンパス生活の充実」の三つです。そして今年 2011 年のキーワードは「楽しみ」「気軽さ」「知識・交流の増大」。何を植えてもいい。BBQ や収穫祭をやる。ミーティングは週 1 回。近隣農家の訪問、オーガニックレストランでの食事会などの活動(月一回)。協力頂ける方、関わってみたい方は、時々でもかまいません。ぜひ遊びにきてください。

POINT.5 スポーツ健康学部食堂

スポーツ健康学部生は、授業期間中であれば食堂用 IC カードを利用することで昼食を摂ることができます。スポーツ健康学部では、実学として主体的に学習に取り組んでもらいたいと願っています。そのために多くの実目も用意していますが食育についても、授業中だけでなく、普段の生活の中で健康について考えてもらう機会を提供するために、摂取カロリーや週間メニューなどを提示して提供しています。また、2011 年度からは増築し、約 400 人収容の食堂になりました。

POINT.6 トレーニングルーム

上肢から下肢までのトレーニング機器が一通り揃えられており、明るく開放的な空間となっています。また、フリーウエイトを行うのに十分な空間も確保されています。オーディオ設備も完備されているので音楽をかけながらのトレーニングを楽しむことができ、トレーニング終了後は隣接のシャワールームで汗を流すことができます。

フィットネススタジオは実習授業の中でももちろん利用しますが、学部生には時間を決めて開放しており、自由に利用可能です。また、管理・運営は学生スタッフにより主体的に行われています。但し、今はスポーツ健康学部の学生・教職員のみ利用可能と限定されています。

POINT.7 運動実習室

3面鏡張りで床にはスプリングも埋め込まれているのでダンスやエアロビクスの実習にはもちろん、姿勢を確認しながらのアスレティックトレーニングの実習の場としても利用されます。また、体育の教員免許を取得するにはダンスが必修となっています。

POINT.8 フットサル場

人工芝のフットサルコートは授業での使用はもちろん、休み時間等でのスポーツの場としても解放されています。適度な運動・適切な食事の摂取・休息は健康維持をする上で大切なことです。その実践場所でもあります。

また、学部独自のスポーツ大会や 2011 年度はチャリティフットサル大会も開催され、イベントを行う場としても使用されています(芝のはだざわりがとてもよいですよ)。

POINT.9 多摩送信所跡

多摩送信所は、第二次世界大戦末期、本土空襲に備えて対外送信の確保が要請され、国際電気通信株式会社(現・KDD)が 1945 年 4 月に建設した通信施設です。この多摩送信所は 24 万 4000 m²の敷地を有し、敷地内には高さ 60m の木支柱が立ち、アンテナの空中線 6 基が樹林の間に隠蔽配置されていました。ここでは技術者 35 人、事務職員 15 人が働き敷地内には独身者の寮も建っていました。

終戦の 5 日前の 1945 年 8 月 10 日、日本が「ポツダム宣言受諾」ニュースを世界に向けて発信していますが、そのニュースの送信に重要な役割を担っていたのが多摩送信所と伝えられており、この場所が第二次世界大戦を終結させ日本が平和の扉を開く上で大きな役割を果たしていた歴史的な場所であったと考えられています。

(解答: ポツダム宣言)

POINT.10 宇宙の風

「この物体は一体何なんだ?」と思っていた人も多いのでは?

これは「宇宙の風」という題名で、1995 年 3 月に多摩キャンパス開設 10 周年を記念してつくられたものです。設計したのは、彫刻家で、元法政大学工学部教授でもある飯田善國(1923~2006)。彼は、1956 年ローマに留学し、1960 年代後半日本に帰国しました。

帰国後は、周囲の様々な風景を映しこむ鏡面ステンレスと、ベアリングという部品を使い、野外で風により回転する、動きのある時間を取り入れた作品をつくっていきます。

この「宇宙の風」も、その一つです。風の動きと周りの木々の風景を受け入れて、自然の中に溶け込んでいくような芸術作品となっています。言われてみれば、「大きいわりに圧迫感がないな」と思いませんか?まさに、緑あふれる多摩キャンパスにぴったりの作品と言えます。

(解答: 名前:宇宙の風 設置の契機:多摩キャンパス開設 10 周年)

POINT.11 水辺サイト

解答は A または B です。侵入した外来種が同所的に生活する在来種と近縁な種類であると、交雑することがあり、新たな雑種を生じることがあります。また、在来種を捕食して絶滅に追いやることもあります。これらの問題は生物多様性に大きな影響を与えます。水質汚染や人への危害は生物多様性とは異なる問題です。

(解答:A:雑種形成 または B:在来種の絶滅)

POINT.12 エッグドーム

エッグドームは 1999 年に新しく建てられました。サークルボックスや大小ロッカー、多目的ホール、150人規模のホールや会議室、和室のほか、3階には寄贈されたビリヤード台もおかれています。地下には防音設備のある音楽練習室、ピアノの練習ができる個室もあります。

この「ふくろう」は寄贈されたものです。

この「ふくろう」の像と対になるものが、B 棟2階と現代福祉学部棟の間のエレベーターのそばにも飾られています。

(解答:1999年)

POINT.13 センター・フラザ

センター・フラザは 2011 年4月にリニューアルされました。その際、多摩移転以来育ってきた、三本のヒマラヤ杉も惜しまれつつ、伐採されました。通行人と接触する危険を少なくしつつ、軽スポーツをしたいという学生たちの希望を受け止めるためでした。床の材質と色分けにもその意味が込められています。壁側が活動エリア、東側が通行エリアとして色分けされています。

(解答:B)

POINT.14 モニュメント「泉一不戦の誓い」

この作品「泉一不戦の誓い」はもう一つの作品と対をなしており、二つとも、多摩校地の開発に貢献した故栢野晴夫社会学部教授の尽力を記念して、遺族からの寄付を生かして制作されたモニュメントです。

制作した北一明氏は、制作意図を「人類絶滅の危機と夢なき困難な時代に生きる学生たちの学びの場所に反戦反核平和の思いと声が泉のごとく溢れ出て、その出発点となることを願い、20世紀最大の汚点となった歴史認識の基点であるヒロシマ・ナガサキ・アウシュビッツ・南京・沖縄などの土を練り込み表現して昇華させた有史以来の創作モニュメントとして製作した」と記しています。このように対をなす作品は多摩キャンパスに学ぶ学生たちに反戦・反核・平和のメッセージを伝えるために制作されたものでした。

ところで、このモニュメントを制作した北一明氏(1934年～)は法政大学大学院で学んだ後、焼きものを通じて思想表現を試み、その作品を工芸のジャンルから芸術の域まで高めています。彼の作品は東西冷戦下の中において反核平和を希求する人たちに支持されアメリカ・カナダなどで巡回展が開催されています。その反響は大きく1987-88年にはアメリカ・カナダの大学や美術館の関係者たちの働きかけでノーベル平和賞候補にノミネートされています。

(解答:泉一不戦の誓い)

POINT.15 学生ホール

社会学部では学生たちが自由に使える学生ホールを移転当初から配置していました。占有はできません。2010年に場所を移動してリニューアルしました。ここを利用して討論会などが企画されることもあります。

POINT.16 多目的ゼミ室

多目的ゼミ室は学生ホール改修のときに、はじめてできました。小グループに分かれて学習活動するとき、通常のゼミ室(24名)では狭いときなどに活用されています。半円型の机など、組み合わせて大きなテーブルをつくることのできる、カラフルでおしゃれな机が配置されています。

POINT.17 101教室

社会学部には映像制作関係の講義で利用する施設が移転当初から設置されています。この教室には映像を編集するのに適した機器が多数配置されており、毎年、利用者講習会が行われ、講習を終えた学生は、ここの機器を利用することができます。

POINT.18 自習室

たくさんの机が配置され、学生たちここで、いつでも空き時間に静かに学習することができます。よく利用されています。

POINT.19 モニュメント「夢」

POINT.14の「泉一不戦の誓い」と同じ作者、北一明の手になる、陶器の壁画です。(解答:夢)

POINT.20 203教室(スタジオ)

この施設は本格的な撮影スタジオです。高い天井に撮影用ライトが複数配置されています。二階には、音響等を操作するブースが備えられています。

POINT.21 バーベキュー場

多摩キャンパス内は火器使用が禁止されていますが、ここでは学生センターで手続きをとれば、決められた時間内なら、中庭の緑を眺め、語りいながら、バーベキューを楽しむことができます

POINT.22 中庭

この中庭にはたくさんの種類の樹木が植えられています。クスノキ、コナラ、フナ等々。是非、多様な樹形を楽しんでください。この庭からセンター・フラザの方を覗くと、円筒に形を整えられた三本のキンモクセイが植えられているのが見えます。秋には小さな黄色い花が、甘い香りをとどけてくれます。

(解答:デュッセルドルフ)

POINT.23 フレイセラピー室

フレイセラピー室には子どもの心理療法であるフレイセラピーで用いられる遊具が用意されており、箱庭療法で使う砂箱(箱庭)と玩具が置かれています。これらの道具は、言葉での表現がまだ十分でない子どもが自分の気持ちを遊びの中で表現するのに役立てられます。学生はこの部屋でフレイセラピーのさまざまな場面におけるカウンセラー役とクライアント役を演じる実習や、自らが箱庭を作成する実習を行うことができます。この実習によって、講義だけでは得られない、カウンセラーの振る舞いやクライアントの気持ちを体験することができます。

【フレイセラピー(遊戯療法)とは?】

クライアントである子どもが遊具などを使って遊び、そこに表れている子どもの気持ちをカウンセラーが理解し、必要であれば理解したことを言葉で伝えることで、子どもが自分を表現し、理解し、新しい体験などをする機会を提供して、心理的な問題を解決していく心理療法である。【箱庭療法とは?】

クライアントが箱庭に玩具を自由に置き、カウンセラーがそれを黙って見守る中で、クライアントの心の中の偏りがほぐれて動き出し、バランスのとれた状態になることが生じ、クライアントの心理的な問題が解決される心理療法である。なお箱庭療法はフレイセラピーと違い、子どもだけでなく大人にも用いられる。

POINT.24 フレイ・グラウンド

ここでは、学生たちがサッカー他、自由に体を動かしています。くつろぐ人たちとすみ分けるために、同窓会がネットを買っていただきました。

POINT.25 トンネル

2011年5月当時、天井等に穴があいたまま、数年放置されていました。2012年にようやく修繕され、やっときれいになりました。

POINT.26 多摩キャンパス発掘調査出土品

多摩キャンパスがあるこの場所は、先史時代から豊かな文化が育まれていました。移転前に行われた発掘調査ではたくさんの貴重な資料が発掘されました。旧石器時代から近代までの資料が発掘されています。今回は(※)、縄文時代の石器、平安時代の鉄器と裏に墨字が書かれている土器、近世の古銭まで展示しました。この土地で暮らしていた人々のことを思いおこしながらご覧になってみてください。なお、たくさんの遺物が現在はまだA棟の地下に保管されたままになっています。早く再整理して、展示されることが待たれます。

(解答:平安時代)※展示は2011年5月25～26日に行い、その後2011年11月にも一か月展示されました。

POINT.27 大原社会問題研究所

大原社会問題研究所は、大原孫三郎によって1919年に創設されました。社会問題に関する多様な資料の文化的価値を100年先を見越してとらえ、資産が投与されました。そのおかげで、現在私たちはたくさんの貴重な資料を手にすることができます。日本の社会問題研究とアーカイブスの先駆けともいえます。ここには著者カール・マルクスのサインのある「資本論」初版本、アダム・スミス著「諸国民の富」初版本も所蔵されています。

(解答:カール・マルクス)

POINT.28 多摩ボランティアセンター

法政大学では2009年4月に各キャンパスにボランティアセンターが開設されました。多摩ボランティアセンターもそのときに開設されました。多摩ボランティアセンターは、開設以前から多摩キャンパスを拠点に活動を展開していたボランティアネットワークサークル「フリッジ」の活動の蓄積も生かして展開しています。

学生ボランティアスタッフが自由にアイデアを出しながら、楽しい、面白いボランティア活動を行っています。

それらのボランティア活動のうち、藤野町(自治体としては相模原市に合併されました)の名産である、ゆずの収穫支援ボランティア活動から生まれたのが、今、多摩ボランティアセンターのキャラクターになっている「ゆずちゃん」です。今(2011年当時)、この町に赴いて、行っているボランティア活動は、自然公園作り・茶畑整備・農作業・廃校利用フランプづくりなどです。(解答:ゆずちゃん)

POINT.29 バーベキュー場

多摩キャンパスに設置されたバーベキュー場、第1号です。夏には夕暮れどき、ヒグラシの声を楽しみながら、食事と語りができます。屋根がついているので雨の日でもバーベキューを楽しめます。

POINT.31 ドーム型屋根

経済学部では移転の時に、設計の段階から低層棟にすることを教授会で話し合うなかで、独特の屋根がつくられました。経済学部棟は中庭があることも特徴的です。棟の9号館・11号館の南側にはフレンジランドもあります。

POINT.32 平和記念碑

この石碑は第二次世界大戦終結から 50 年目にあたる 1995 年 8 月、法政大学経済学部同窓会が呼びかけ、建碑に賛同した 28 団体と個人 811 名からの寄付を得て建立されたものです。

碑文は森不二雄氏(俳優の根上淳。1946 年法政大学経済学部卒業。1923 年生 - 2005 年没)の撰文で「多くの学生が業なかばにして 軍や工場に動員され 学園と学問を放棄せざるをえない 不幸な時代があった 50 年前のことである 君たちは決して そのような青春を送ってはならない」と刻まれています。撰文にあたった森氏は 1943 年に学徒出陣で軍隊に入隊していますが、法政大学からはこの学徒出陣で約 870 名の在校生が戦場に赴いていました。

このようにこの石碑は当時、学業半ばで軍隊や工場に動員された戦時下の不幸な時代を痛恨の思いを込めて多摩キャンパスに学ぶ後輩たちに語り継ぐことを目的に建てられたもので、改めて戦争の悲劇と平和の尊さ考える貴重な場所と位置づけることができます。(Q1 解答:根上淳 Q2 解答:中国語)

POINT.33 百周年記念館

法政大学創立百周年を記念してつくられた施設。多摩キャンパス全敷地の中で最も高いところ(海拔 220m)に建てられています。教職員の研修施設としての利用のほか、学術会議やシンポジウムなどのための 200 席の国際会議場が設けられ、3カ国語(英・独・仏語)同時通訳も可能となっています。仮泊施設もあります。近年では演習の合宿等にも利用できるようになり、より一層の整備が求められています。

POINT.34 ミニチュアホース

このミニチュアホースの名前はモカです。去年(2010年)の7月に生まれた生後 10 ヶ月(2011 年 6 月当時)のミニチュアホースの仔馬です。東京農工大学から寄付されました。

父親は、良馬でも民間の馬だったため、宮家への献上がかなわなかったもので、母親はその良馬に合う血統品種としてアメリカから連れてこられました。父の名はアッフルサイダー、母の名は、シナモン。姉もはアッフルパイ。

ミニチュアホースは 40 キロまでなら人を乗せられ、馬車も引けます。モカにも何か芸を仕込むために、馬術部の部員で日々調教中ですが、とても大変です。

親離れをしたばかりで寂しく過ごしている(2011 年 6 月当時)ので城山校舎の厩舎に気軽に遊びにきてください! (解答:モカ)

POINT.35 馬場と厩舎

ここは法政大学の馬術部が馬場馬術競技の練習のために利用している馬場と厩舎です。

【馬術スポーツとは】

馬を乗りこなす術のことで、人馬一体で競技を行うスポーツです。「馬場馬術競技」「障害馬術競技」の二つがあります

1.馬場馬術競技 長方形の馬場内で三種の歩き方常歩(なみあし)、速歩(はやあし)、駈歩(かけあし)で躍動感に満ちた様々な運動を演じるもの

2.障害馬術競技馬場内に設置された障害物を過失なしに飛び越す競技

【法政大学馬術部の紹介】

馬術部の 練習は馬休日(馬を休ませる日)の水曜日(2011 年当時。2012 年からは火曜日)を除いて、毎日行っています! 平均して週 1 日以上に参加によって、1・2 年次での体育単位の免除対象となります(2011 年当時。2013 年度からは週 6 日参加で免除に変更になりました)。1 年次の体育単位は必修となるので、是非活用して下さい。部の活動は週 1 日の参加からでよいので、平日は授業の関係で部活への参加がむずかしい市ヶ谷・小金井の学生でも土日に部活に参加することで入部が可能です!! 頑張り次第で 2 年目から競技会に出場できます! 馬術部 URL <http://www5.pf-x.net/~hosei-riding-team/index.html>

**スポーツフェスティバル学生実行委員会
エコミュージアムウォークラリー班**

荒井容子

油井大嗣 柳沼太郎 川崎孝仁

池田芽里 大内諒子

2011年5月27日

協力

越部清美 馬場憲一 鞠子茂 東郷正美

須田英一 コミュニティ・フィールド(中谷)

ほか

パンフレット編集者：大内諒子

2013年4月23日 改定版 改定者：大内諒子・荒井容子